

平成18年(2006年)11月7日(火曜日)

(第三種郵便物認可)

みやぎ

(27) 15版

重症身障者用の 入所施設新設を

大崎市に守る会要望

「大崎重症心身障害児(者)を守る会」は六日、医療ケアができる通園施設の増設などを求める要望書を大崎市の伊藤康志

市長に提出した。

大友祥子会長、会員親子四組らが市役所を訪問し、①短期入所施設の新設②地元で小児神経科や整形外科、歯科などの往診が受けられる仕組みの創設③車いすや装具を製作する企業の誘致—を求

めた。

同市には現在、重症心身障害児(者)の通所施設が一カ所しかない上、定員五人対し九人が利用を希望し、利用日数を制限せざるを得ない状況が続いている。今後也希望者は増える見通しで、大

友会長らは「対応できる施設や病院は仙台市にしかなく家族も大変」などと訴えた。

伊藤市長は「実現に向け努力する。新設は厳しいが、既存施設の活用などで対応できないか研究したい」と答えた。